

いつも大変お世話になり、ありがとうございます。

1月24日から通常国会が始まりました。与党過半数割れの中、流動的な政治が続きます。

しかし、世界に目を転じれば、我が国が安定しているように見えるほど、激変しています。ウクライナ戦争が継続し、中東はイスラエルとハマスの間で一時停戦となりましたが、予断は許さない状況です。

ただし、世界の不安定の原因は紛争だけではありません。

米国覇権のもとでの自由主義、民主主義の時代は、どうやら終焉に向かっていると看做されるを得ません。そして、ポピュリズムが各国で台頭しています。先月、トランプ大統領が就任しました。東欧ではプーチン大統領に近い、極右ポピュリズム政権が増え、英国・欧州でも似たような勢力が支持を広げています。

ポピュリズムは「国民」と「非国民」を分断することで、権力基盤を固めようとします。「国民」と言っても、国籍や血統は必ずしも関係ありません。自分たちが掲げる政策理念に共鳴する人だけが「真の国民」とされ、これに異論を唱える人は「非国民」として敵視されます。

ポピュリストは選挙という民主的な手段で選ばれても、真の民主主義に不可欠な「少数意見を尊重する」「意見が異なっても、議論で解決する」という姿勢をとりません。少数意見は「非国民」という言葉一つで抹殺されます。

こういう政治は南米ではよく見られましたが、なぜ先進国でもこうした動きが出てきているのか。一言で言えば、格差の拡大です。冷戦崩壊後、世界資本主義により、モノ・サービスだけでなく、労働力も企業も国境を越える政策が推進されました。たしかに経済は成長しますが、その反面、格差も広がります。リーマンショックのような金融バブルの崩壊により、これに拍車がかかります。戦前のファシズムも、昭和の金融恐慌の後に急速に広がりました。これに移民が加わると、なお国民の不満が爆発します。

我が国はここ30年間、欧米ほどは経済成長しなかったこともあり、格差も比較的広がっていませんが、以前よりは厳しくなっています。

日本でもポピュリズムの兆しが現れています。国民が分断されれば、国力は弱ります。巨大な不満を蓄積している国民のことをよくよく考えて行動をしなければなりません。自由が失われた後に後悔しても「時既に遅し」です。